教館寶訓

ト2
199
1

# 教館寶訓

一子供ハ書物サヘイヘバ役人ニナルヤウニ思ヒ居レリ学問ハ人ノ為ニスルモノニシテ役人ニナルガ学問ニアラズ学問ヲシテ役人ニナルヤウニ思ヒ居レリ学問ハ人ノ為ニスルモノニシテ役人ニナルガ学問ニアラズ学問ヲシテ役人ニナルヤウニ思ヒ居レリ

一子供ハ昔ノ人ニ比スレバ今ノ人ハ大ニ劣レリ昔ノ人ハ酒狂等ノ上ニテ大変ヲ弄出シテモ腹ノ内ヨリ思ヒ定メテ心ヲ動カスコトナシ今ノ人ハ酒ノ上ニテ大変ヲ弄出シテモ腹ノ内ヨリ思ヒ定メテ心ヲ動カスコトアリ

武士ノ子ハ正ヲ立テ義ヲ重ンズルヲ以テ大人ノ名ヲ受ケ一家ノ主ヲ立テ家ヲ治メ国ヲ治ムルヲ以テ大人ノ名ヲ受ケ一家ノ主ヲ立テ家ヲ治メ国ヲ治ムルヲ以テ大人ノ名ヲ受ケ

一サスガ大家程ニテ中間小者ニモ立ツ人ハ立ツ

土下坐ヲスル水キハ立テ物ヲ問フコト万人ノ感ジ一ツモ風俗情ヲ知ラズ此ノ人ノ行ヒノ正キヲ申シ難ク君ヘノ忠ヲ知ラズ武士道

心ノ本ヲ失ヒ明徳ヲ明ノ本ヲ失ヒ至善ノ本ヲ失ヒ再思一言再思一行ヲ心ヲ省テ不悔ヲ知ラズ

一子供達ハ昔ノ人ニ比スレバ嘲弄ヲモ恐レズ十四五ニナル人ハ十二三ノ人ヲ軽ンジ十二三ノ人ハ七八ノ人ヲ軽ンジ七八ノ人ハ五六ノ人ヲ軽ンジ五六ノ人ハ三四ノ人ヲ軽ンジ三四ノ人ハ一二ノ人ヲ軽ンジ一二ノ人ハ家ノ人ヲ軽ンジ家ノ人ハ父母ヲ軽ンジ父母ハ天地ヲ軽ンジ天地ハ人ヲ軽ンジ人ハ己ヲ軽ンジ己ハ己ヲ軽ンジ己ハ己ヲ軽ンジ己

[illegible]

一[illegible]

一[illegible]

一

一政ハ教ノ一字文ハ尺行
ノ書立ノ仕様ニ倣ヒ四
書五経ノ句法ニ倣ヒ
ル事

一藝ハ礼ハ射ハ御ハ書ハ数ハ六芸ノ所作ニ倣ヒ
ル事

一善ノ道ハ人ニ対シテ三ツ目ニ
ル信ノ道ハ人ニ対シテ同役ノ
事ハ自分ニ対スル類ノ
ル事

一食物ノ入物ニ一ツ
ル大中小ノ入物ノ

年若キ人ニ文盛勇学ノ外ハ
ルト見テハ己レ栄ヘ
事ハ己レ用ハ何ニ
ハ学問ハ自分ニ
ル事ハ人ニ対シテ
ル事

一教学所ノ主人某十年餘ノ

有命富貴在天ゝて凡夫小人の境界ゝハとゝもに
ハやり行事の道と関すゝ人ゝとゝ物行りとゝきみゝとゝ
おゝたゝ此世界ゝ
もゝ下戸ゝとゝ
ハサゝ
き
丹誠信実ゝ
人ゝ誤り
ゝ
ゝ
ゝ

[illegible]

一有徳院様ハ行状見聞朝暮国民と安らゑ[illegible]と
[illegible]武陽南花録の附
録寛仁記の上のきゝ[illegible]
[illegible]

一[illegible]

一[illegible]

[illegible]

[illegible]

一孟子の書ハ所謂孔子流ルヽて正ラヽ中庸の学ハ天命ヲ出テ大学の学ハ明徳ヲ立ルヽ今日世の中ハ[illegible]ヲ向ル[illegible]ヲ成[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ

[illegible]

一切やうの者ども[illegible]

[illegible]

一毎月吹上[illegible]

[illegible]

一勤学者八年[illegible]

[illegible]

一毎月[illegible]

[illegible]

一毎月[illegible]

[illegible]

一[illegible]

[illegible]

一[illegible]

[illegible]

一

誰問山人住碧山百戦不換一清閑桃花流水自然真情里皆浪漠答祖

論語の教ふる学ぶとは何ぞ。礼記の説ふる学ぶとは何ぞ。中庸の説ふる学ぶとは何ぞ。孟子の説ふる学ぶとは何ぞ。

一御世々々御講釈の儒者ども

一大学一冊ともよみがなのなきもの

一娘の子共ハ大学・中庸・女誡・女学・女論語・内訓・列女傳の十書を能く覚えその意味を能く知る事

一大学の意味を問ふ

一大学の意味を問ふ

一大学一冊ともよみがなのなきもの

一娘の子共ハ大学・中庸・女誡・女学・女論語・内訓・列女傳の十書を能く覚えその意味を能く知る事

伊勢の物語はかの物語の枕草子紫式部の源氏物語をまねび續けるなきあり[illegible]

一[illegible]

外国の書物とりどりなれどやまとことばにあらぬ[illegible]娘の[illegible]

[illegible]

[illegible]

一誰問山人碧山住桃花流水自然興誰識其頑實不頑我国の[illegible]

井[illegible]

一[illegible]女大学女今川[illegible]

[illegible]

[illegible]

一目上の方の仰せられ候ハ吉げヒヾキの如しと仰せて世界の方一味道理にて候と得心仕候これを長くハ天と長くの心

一行儀学問成就仕候ハ人に向ひて申すもの者とも存ぜ候ハ

一子孫らん積り積り切り積り時ハ物の自ゆるせ候ハ

一仰せ学問人のほまれハ行しるしハ

一年より十四五ハ人の師匠ハ

一栗栖子ども人のもとに三人生

一目上の方ハ

一目上の方ハ

一目上の方ハ

[illegible]

一みちの学ぶの大先生ハ孔子なり

孔子ハ三千五百年ばかり前の人なれども今日の世にもなほ孔子の道ハ行はれ[illegible]

[illegible]

一飲食男女人の大慾なり君子正人の学ぶ人の本とすべきなり聖人ハ百万の行ひて天地のみちにかなひ程よく天ハ方物を不載なしと[illegible]物と物とハ物なり猫と鼠ハ物なり[illegible]

[illegible]

問ヒ学ブベシ敬ハ人ニシテ人ギノ礼ウヤマイ木鐸ハ唐ノ外ノ行ヒ
或ハ物ヲ或ハ情弱或ハ名ヲ好ミ利ヲ好ミ欲ヲ先ニ信義ヲ忘レ
や書ヲ讀ムヒハ学ヒ学ブヒハ人ノ道ヲ辨ヒ心ある人ハ学ブヒ学ブヒ
ハ人ノ道ヲ辨ヒ心ある人ハ学ブヒ学ブヒハ人ノ道ヲ辨ヒ心ある人ハ学ブヒ学ブヒ

一書物ニある名言ハ古人ノ見バ考ヘ見ル大人ノ言ヒ行ヒ
ヒ巻ノ巻ノ名言ハ千ヨ古ヘ今ノ行ヒ
又ハ学ブヒ学ブヒ名言ハ心ヲ思フ
行ヒ立テ学ブヒ学ブヒ今日ノ心ヲ
人ノ人ノ道ヲ学ブヒ学ブヒ
礼ノ行ヒ学ブヒ学ブヒ

一ヲ学ブ或ハ学ブヒ学ブヒ
ノ学ブヒ学ブヒ
ヒ学ブヒ学ブヒ
ヒ学ブヒ学ブヒ
ヒ学ブヒ学ブヒ
ヒ学ブヒ学ブヒ
ヒ学ブヒ学ブヒ

一私子曰ニ長ヲ宋ニ竜逢
ル紀ヲ此ヲ人ニ宋ニ宋庭蓁
の三ハ大賢ヲ知リ
ク難ヲ
ル
ル
ル

[illegible]

一人の体あれるくらいきうめのじやいやなるものの心をハ永き年月の間ハ傳ずるものそ人の性と言ふ

曲礼曰四海の内の心を正ふするの学文片時も忘るべ[illegible]

一政ハ君の世を治きそ帝王の政の名是コレ聖人の教なり教ハ聖人の行ふ所の政きそ賢人の道也政ハ君のよりすべきものの聖人の境界政とハ治世賢人の道

[illegible]

一言を以て一色の書と作りも名の顕るる賢者也[illegible]

[illegible]

一人の学ハ[illegible]

一[illegible]

一[illegible]

一

一[illegible]人思元那の[illegible]と[illegible]書程と[illegible]徳のもと[illegible]易徒と[illegible]は[illegible]乾[illegible]を思ひ[illegible]

[illegible]人[illegible]の[illegible]あ[illegible]き[illegible]氷と[illegible]

一[illegible]

一[illegible]

一

一六年ゟ毛みちのおくさま
ちと後ゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

只みちと為くなとをもひ動とんこと動とし以て[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一みちとりは天子諸侯の官[illegible]

[illegible]

一五倫のみちの訓　一きたなきものをきよめ[illegible]

[illegible]

一その地を住居するのに人間[illegible]

[illegible]

一大学の格物致知[illegible]

[illegible]

一[illegible]

[illegible]

一[illegible]

[illegible]

一

一麻疹又ハ疱瘡ニて死ス事ハ軽きハ少き如く重きハ多し

一学文も欲の為や名と与る為ニ成ハ人の毒物ニ成て世を欲つゝ成るを恐れ

一新著聞集ニ出テ来る東照宮様ヨリ安藤タテワキ殿の褒と拝領ニ成る事

一日新ハ書住仲恒之話の古法を不解為ニ成ハ

一今の世の政ハ

一法眼の人ハ

一信ニ成太平の世ニ成て

一文権現様のスルガの国清水新八郎の

一新著聞集ニ出テ来る東照宮様ヨリ安藤タテワキ殿の褒と拝領ニ成る事

一日新ハ書住仲恒之話の古法を不解為ニ成ハ

一今の世の政ハ

一法眼の人ハ

一信ニ成太平の世ニ成て

一文権現様のスルガの国清水新八郎の

此くの段そうハ徒そ
のこゝろをくみ取ること
みちを知のこゝろなれ
ゝ

中ほどゝ吟味する
ほ俗教とはかゝるとは
とゝ学ぶとハ夢
かしこゝハ学ぶハ生涯
ゝ

ゝ

ゝ

[illegible]

一万事知足と学ぶべし大切なり但し昔の[illegible]コモかぶりの[illegible]

[illegible]

一[illegible]

[illegible]

[illegible]

一多年ヲ経ハ行きとゝのほるなり事ハ一つ一つ成て
あるべきことゝや子孫ハ家業ハ三つのケイコのハ用も学問ハ
まなびべくゝ事
一昔楚之威王花よりの員人ハ
使者ヲ遣ハ人ハ祭のイケニエ
世様の臣下ハ
一みちの学文ハ
人ハ
あゝ元や明の事の敵の国逼傾城城中の人数へる妻あ
一昔ハ軍のある心持ハ我と
一学文ハ心の
軍法と聞ハ明時のめぐり
人の延慕ヲ
一世の中ハ
一敬学所ハ学問ハ
人ハ
人ハ
人

教学所

一孝経書経ハ古文今文あり　孝経古文孔安国注今文鄭玄注　書経古文孔安国傳今文ハ鄭玄注今くくり

論語ハ黄ハ三論

今の論語ハ鄭玄論ヶ年ヲ三論と一書ニ拘ヒ古注新注ヲ初ヲ迷ヒ
ヒ詩経ハ斉詩 隋経籍志ニ 魯詩 元於 韓詩 毛詩の四詩ヲ今の詩経ハ毛詩ヲ漢
魏代ヒ 西晉 [illegible]
の河間王の傅者毛公の注する所ヲ毛詩と云ふ故ニ関雎の詩ヲ育詩魯詩韓詩の記
ニハ陰奔と刺ル詩ヲ云ふのゆゑ毛詩ニハ文王の真方の正妃と云ふ詩ヲ云ふのゆゑ同し詩
ニ云ふ月ハ雪と異なるのちがひゆゑ作者も程子ハ周公の詩作と云ふ 二程全書 王應麟ハ卑
公の詩作と云ふ 困学紀聞 ことゆゑ草虫の詩ヲ古注ニハ大夫の妻のみち
と云ふ詩ヲ集注ニハ夫の旅ヲ思ふと云ふ柏舟の詩も古注ニハ賢人の悔ヲ
詩ヲ集注ニハ夏女の夫ヲ待ヲ詩と云ふ詩ヲ先て和漢の書ヲ
古今の注諸説紛々として異同ヲ限あるのみ云ふ泥ヲ古注ヲも新注
ヲもその是ヲ知ラズ今のみちヲ引あてくらべ人ヲ知るのみ
この世の中ヲ治ル事ヲ思ふ故ニ毎月ヲ思ふ一経の意味ヲ

一小人ハ先王の為ヲ
ニ云ふ小人ハ先王の為ヲ
とりきゝ[illegible]ヲ
と云ふ[illegible]ヲ
丸の[illegible]ヲ
ありうし[illegible]
[illegible]ヲ
ハ[illegible]ヲ
[illegible]ヲ
[illegible]ヲ

[illegible]

一諸侯方々へ[illegible]

一[illegible]

一周易第六十一卦風沢中孚の文王の彖の辞

[illegible]

一遠慮のあるが学文の一大事なる甚遠きことなり[illegible]

乱れを鎮むるの八弓
鉄砲と乱れを防ぐの八
楯竹なり異国の人を
ちらすの八大なる事
を知らざるべし人情
ものを遠き慮八人の古今の
るを忘れそれ世の中
大人英雄ばかりの
のことなり世の隠
れる者の通ず君子
の道なり然ばかりの
学問をなる者の面
八当世の才智ばかり
ぬよりなる者
みちを的とする
才名もの出る奏
人八人格おのとる
只スサビキ人しと
つくるばかりだけ
バかりのおいる
まねびとなる人
おもの才智とわ
馬を使のまつる八世の
和ありてとなくぐるしかるべきの学問を落
一馬を使のるに人の曰まつる馬ハ和なりしと此言名言
と治べしを供ふ
ぬをるる大人ハ
他味なる事
一見人ハ目を八目
なるまハ和ハ
心を明徳の心八目の
二かとの学問八
るかの中の
る事
一ある人の曰ある者行
ものハ十計りの小僧が
大きな者とを流
しるる世ヨリヤ
馬を使ひ
めを言ひ
談をスサビ
コレ為の言
名言なれ
年をあるる
るみちを
ハ和ハ
ハ和ハ

一大学の民の親の道ハ明徳の心を訓るを人形を者人ハ
ヨルヒル目をあきて
一馬を使のまつる八世の中
人ハ
ハ
国天下
和ありてとなくぐるしかるべきの学問を落
一馬を使のるに人の曰まつる馬ハ和なりしと此言名言
と治べしを供ふ
ぬをるる大人ハ
他味なる事
一見人ハ目を八目
なるまハ和ハ
心を明徳の心八目の
二かとの学問八
るかの中の
る事
一ある人の曰ある者行
ものハ十計りの小僧が
大きな者とを流
しるる世ヨリヤ
馬を使ひ
めを言ひ
談をスサビ
コレ為の言
名言なれ
年をあるる
るみちを
ハ和ハ
ハ和ハ
一巳の代善の世ハ善のあるを
借地借宅を作れるアバイを
一紂の代ハ夏の桀ハ
本を作るの行
ハ
ハ
ハ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

世ヲ世ク知テ仕ヘレバ
後悔ヲ忘ルマジク子孫
ヨリ子孫ヲモカヘリミル
ベシ土堂ヨリ高ヤカ
ニトヒジヤ志ヲ高ク
名利ヲ外ニシテハ学文
ヲモ修ルベシ此ノ道ノ
仁義ヲ学ブ言ヒ色ヒ
ヲ難シ心底仁義ヲ学ブ
似テ別ジヤハカラル人
人ノメキヲ勇ム行ヒ世ノ
似テ非ル人ヲ錯ル事

一大名家ノ学ブ人ハ
女三女ヲ給ヒ
政ル人ハ
ル目ヲ
ミチノ的ヲ

一色カ文シノ学ブ心ニ二種ヲ
ヒ謂ノ学ブ人ハ腹ノ内ヲ制
ヒ言ヒ容ヒ色ヒ
ヒ孔子ノ教ヘ
ヒ真ノ仁ヲ難シ
ヒ道ノ行ヒ一様ニ
ヒ似テ別ジヤ
ヒ似テ別ジヤ
ヒ中ノ
ヒ中ハ
ヒ中ノ次男三男ハ次
ヒ中ノ
ヒ前勝ル

大将一人ノ下知ヲ
ハ誰ト
大将一人ノ下知ヲ
ハ誰ト

一世ノ中ニ

が学文之ことを語る学世ニ
又目くのの人のおどる道
まりたくはなし仁
ちがハ目くのの人ども
うゆまくがうまるありと
ら〜へよりとうみ事
すとつゝたむす
る学世習ふの論語の
学文ろう事

一学生の日様様を二月と
不同ものハちゝ様ハ
とたゝ師匠文
つ分ゆ書ゐ
行ゐみちゝ
門人ゐ師の
跡達ゐハみち
ゐとゝ〜ゐ
志とゐ
恩ゐ習と
ゐ人ゐハ

一小利を人ゐめいらゝけるゐきゐのじゃつとゐゐゐ人ゐとゐくゐゐめゐゐれハ損ゐ
ゐ人ゐ小利とゐくゐゐハゐゐゐゐゐゐ初ゐゐゐくゐ辨ゐ事

一学者ハ信者ゐ人ゐ人ゐのみちゐハ初ゐ学ゐ
ゐ〜みちじゃ義宅ゐ
ゐくゐ人ゐとゐくゐゐのみちじゃ能ゐ
ゐ妻ゐ学ゐ世ゐ人ゐの業ハゐべきゐじゃ
ゐ妻ゐある学ハ君ゐのみちゐ
ゐ事

一ゐぎと不知ゐゐハ身ハいゐゐのじゃ方一人ゐ上ゐゐと知ゐ世ゐ学ゐ大不世ゐ事ゐ

一師と学ゐゐあの人ハ人ゐじゃゐ〜書き人じゃゐ〜行ゐ
して長ハ世のきゐくゐよゐ人の目ゐゐゐゐゐゐ師学の
ゐゐ利ゐ人ゐ学ゐ
ゐゐ正ゐ不正ゐ

一学ハ苦ゐ学ゐ多ゐ仕ゐ世ゐ風易ゐ初ゐ人ゐ食ゐ学ゐ方ゐハ食ゐ学ゐ
ゐ飯ゐゐゐゐ針ハ惜ゐ学ゐ
ゐ事

一人ハ利欲ゐ人離ゐ学ゐ損ゐゐゐハ学ゐのじゃ学ゐ花ゐ学ゐ学ゐ施ゐ学ゐ
ハ学ゐ学ゐ学ゐ

一ヒノ木ヲヒリハ。ウ。ヲ。ヲ人ハ。ヲ。ヲ木柱ヲヒ。ヲ。ヲ旨ウ。ヲ。ヲ人ヲ。ヲ。ヲ。

[illegible]

一武侯　梁惠王　父上ヲ西河トヲリ給フ　美哉山河之固　魏の国の宝也とゝ[illegible]ハ呉起　みちを立て要害のよき
ハ[illegible]ヲ[illegible]ヲ明の衆相暦草ヲ精き人と[illegible]明の天下ハ[illegible]代ツヽクヲトヽハセヲバ山東の周敬心と[illegible]
人国の長ツヽきヲハ君のかゝる[illegible]次第ヲ[illegible]
[illegible]

一いつの世ヲ[illegible]ヲ直ハ出家ヲ人[illegible]妻ヲ[illegible]ハ[illegible]
君のみちハ行ルヽ[illegible]ヲ一向宇ヲ西山本願寺の[illegible]軍と[illegible]ハ[illegible]世の中の人ヲ[illegible]世の外
の道を妻子も捨て形ヲ日本の[illegible]ヲ君のみ行ひ[illegible]ハ神職ヲ[illegible]神職ヲ[illegible]我心[illegible]ヲ在家と同
[illegible]

一あれ衰今ヲ[illegible]ヲみちと学ぶ[illegible]時ハ後よきハ後ヲ[illegible]ヲ[illegible]ハ[illegible]ヲ人ハ後ヲ[illegible]
教年[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ

一仁ハ人ノ心ニ備ハルモノ義ハ人ノ道ニ行ハルベキ事

一君ガ為ニ臣下ニ向テ義ヲ行ハルベキ事

一知ハ人ノ心ニ備ハルモノ

一君ガ為ニ臣下ニ向テ義ヲ行ハルベキ事

一人まつく取りもまぬかれ
みちのこともの人はなにもなく
よまるかけてもまてもこと
くるかかるつい三五
ハみちそりとこの十年
而の通ずかり一まとこと
かけ行このいかまとかの人
コウ代なの人も形者
と形者と自ゆるかり
まとまとまとハ百人まと
と一ゆるるんそのようなこと
と大ちり也京ハごうこと
向りかり面ハみちと
くるかかるまとの一つ
事とみちの学ぶるかり一
まとまとまるいるかの中
人と絵をいるくるかりつ
ようとる現行アリ又実ま
四ちの人のまる カハ人くん
ハ不ばられんしすべきま
こハかるくるは絵をのつの
目こやとてハまるんのまた
またのかき行ひあるとく
ちんと聖人の内ちくハ学ま
まとをとまるまるまと大学
の始まる明徳の明ニ止るとも
と後ちくハ天のかをを三
トまま大きかるう一大事の
大学ようる終教ハ四のミと
あれてふる終ハ事
一人の難儀ハ万の難儀也とも人ハ形式に深あれもオイと思候又ハ
切ものこれ教ちハ人ちハそく只ひの朋友と伴ニ世ぬ学ぶ方ハ同様ニハ
学ぶまれバヨミカキの小学文もみちの大学文も能ものオ上ゆるる事

一犬も故ハ方くあれ文ぬそ村中ちちの節孤の景色ケイシキ一村の長ちの学問ハ
ちくぬ即仁ジャ一ハ学問ハ学生言語ニ一ハ半ちまるふかるよ
一人百のみち一ちまるあ故皇の二ちあべきちちちりみ
ハ百人ちまるのちのちちちハ学ぶちちみちの学ぶと花の学ぶ
ちちちちハ六ちるとちと書ちサハサハちちハ
ちちハ学ぶ学ぶハ学ぶハ学ぶハ学ぶハ学ぶハ学ぶハ学ぶハ学ぶハ学ぶ
ちちちち

文字もホントウハモノ〳〵ガテンガトキ、デイヨウの事ハ、礼ヲ文ニ、物ヲモ日本
学の三ツ、ヒトツ、ヒトツ、ヒ、ヒ、毎年ノ同ジ金ヲセあんそこ、事ハ、ヒ、ヒ、集めなのごや

一年ノ間、我ニ、ヒ、ヒ、ヒ

日ハ又両天或ハ定ト云ハ君
子ハ人ニ対シテハ偏頗ナキ
ヲ人ノ為ニハ私ニ礼ヲ
ナスト云事ノ礼トシテ
一目上ノ人ニ対シテハ君
ト云ヒテカハ先ク行モ
非ズ学ビ之ヲ行ヒ
ト事

一武士ニ対シテ学ビ武ハ仏ノ教
アリテ学ビ賤ノハ仏ノ教アリ
平人ニ対シテ学ビ賤ノハ仏ノ教アリ
仏ノ教ハ近ク遠ク中
の位ハ仏ノ教アリ市
町の位ハ仏ノ教アリ
とふ云ふ事ハ
ひとりの一のまま
ひとつ事

一人と情ノ人ノ
天の如ク天ハ位ノ三ツ
そこ人やし
なりの日ハ
ふ他の如
中ノ
ハ
ハ
ハ

一人〻人の道とは何とあるを心不安とハそもいかなる心
ぞ人のみちとそとハ何
心慶体肝るみちとりの例とをめの父母の中に書物を陸ゝ
時愛に通ずるを同を不
可有とあるをしは己君主聖人の教の如し虎の如しよく
竜潛開
虎住山
時南ゝそハ
狐の如
狼の如ありて意危ゆるのゝ
神仏の仰ゝ
一太学校の道ハ
修身を備ゝ
為明徳の時
まいらべきなり其厚
ゝ
一諸侯の道ハ
修身を備ゝ
為明徳の時
一外邦の唐伯虎
一諸侯の道ハ
修身を備ゝ
為明徳の時
一拘猶
一諸侯の道ハ
修身を備ゝ
為明徳の時
一諸侯の道ハ
修身を備ゝ
為明徳の時
一諸侯の道ハ
修身を備ゝ
為明徳の時

一書物を包み結ぶ様ハあらまほしき事

一女の学文とても礼の心の本を明らかにすべし

不正なるハ妻多のあるまじき事

女の学文も乃ち敬学問廣く心を女ふるやとの学文を専とし男女人童子ハ

学問ハ心を我私の欲を仁義の礼あるべきの一つの事

一みちくさを好ハ人をそこなふべきなり

人をこなるてハ拙くてあきなひをとるべし

輪語

一中庸ハみちの行ハくるしきなり

一内症ハ内症を治ハ内症を直きをもつて内症とする

一内症のなるハ明也表をもつて内を利欲のなるのべくるべし

一君子聖人のみちの米表ハこれをあらハ

一みちくさを好ハ人をそこなふべきなり

一みちと物との色しの商ひなるべ

一年三き人の内職を

一君子聖人ハ礼を

一君子の行ハ百事のみち

一初学ハ

或放埒

一君子聖人其道殊不先知道必謬軀讀書宜學最要事勿陷空文字俳

一君子聖人ハ

一世の中ハ清ひのみち

一ハ武芸

一ハ武芸

一ハ武芸

一君子聖人心不殊、乾坤同德一無吾濟他慎獨異其道教學勿相俱誤軀みちをの為ち
おさまるべきの道と、ひとりの世のけの人とも出ぬとをもまんがみちとをみ十八大と別みれども
別て殿るるのすべ
ひとをのメザミのコロハ同をとをあるをもとをあるをもとをあるをも

一隔日寄者隔日ニ

一つぶいてせねばあるまじきもの

一おさな子いろ〳〵と感ぜしめて泣せぬ様にすべき事

一村一駅もあるとかゝるべきあの兵一品の町の事

一ハ諸病の発名にいわく二ガリ毒ハ暴る発表の症あるべし此下三傳和出あるべいかハ下痢

一火桃軽重を測ること能病人指出まるべいかハ妻子ハ妻子ハ物をつゝりてよく書あり此まゝ

一所の安堵の事世に改てもよく改てもよく

一所者でもしてもてもてもあるとなるオホ勢の門〳〵ゆく様ならしてなるものも

一ものの心ばせあるスクうみちるきものけるみちハ家ゆくクスリモルヤつゝ殺ルヤ又者と治る

一みちのものゝ妻子ハ妻子と妻子ハ妻子と妻子ハ妻子と妻子ハ妻子と妻子ハ妻子

一行とんで世ゝ〳〵世ゝ〳〵世ゝ〳〵

一人道のみちとあるべき人倫の教をしらざるは
禽獣也と孟子の言葉あり
一人の子たる者は父母に孝行を尽すべき事
一人の臣たる者は君に忠義を尽すべき事
一人の兄たる者は弟を愛し
一人の弟たる者は兄を敬し
一人の夫たる者は妻を愛し
一人の妻たる者は夫に貞節を尽すべき事
一人の朋友たる者は信義を尽すべき事
一人の子たる者は父母の命を聞て
一人の臣たる者は君の命を聞て
一人の兄たる者は弟の命を聞て
一人の夫たる者は妻の命を聞て
一人の妻たる者は夫の命を聞て
一人の朋友たる者は朋友の命を聞て
一人道のみちとあるべき人倫の教をしらざるは
禽獣也と孟子の言葉あり
一人の子たる者は父母に孝行を尽すべき事
一人の臣たる者は君に忠義を尽すべき事
一人の兄たる者は弟を愛し
一人の弟たる者は兄を敬し
一人の夫たる者は妻を愛し
一人の妻たる者は夫に貞節を尽すべき事
一人の朋友たる者は信義を尽すべき事
一人の子たる者は父母の命を聞て
一人の臣たる者は君の命を聞て
一人の兄たる者は弟の命を聞て
一人の夫たる者は妻の命を聞て
一人の妻たる者は夫の命を聞て
一人の朋友たる者は朋友の命を聞て
一人道のみちとあるべき人倫の教をしらざるは
禽獣也と孟子の言葉あり
一人の子たる者は父母に孝行を尽すべき事
一人の臣たる者は君に忠義を尽すべき事
一人の兄たる者は弟を愛し
一人の弟たる者は兄を敬し
一人の夫たる者は妻を愛し
一人の妻たる者は夫に貞節を尽すべき事
一人の朋友たる者は信義を尽すべき事
一人の子たる者は父母の命を聞て
一人の臣たる者は君の命を聞て
一人の兄たる者は弟の命を聞て
一人の夫たる者は妻の命を聞て
一人の妻たる者は夫の命を聞て
一人の朋友たる者は朋友の命を聞て
一人道のみちとあるべき人倫の教をしらざるは
禽獣也と孟子の言葉あり
一人の子たる者は父母に孝行を尽すべき事
一人の臣たる者は君に忠義を尽すべき事
一人の兄たる者は弟を愛し
一人の弟たる者は兄を敬し
一人の夫たる者は妻を愛し
一人の妻たる者は夫に貞節を尽すべき事
一人の朋友たる者は信義を尽すべき事
一人の子たる者は父母の命を聞て
一人の臣たる者は君の命を聞て
一人の兄たる者は弟の命を聞て
一人の夫たる者は妻の命を聞て
一人の妻たる者は夫の命を聞て
一人の朋友たる者は朋友の命を聞て
一人道のみちとあるべき人倫の教をしらざるは
禽獣也と孟子の言葉あり
一人の子たる者は父母に孝行を尽すべき事
一人の臣たる者は君に忠義を尽すべき事
一人の兄たる者は弟を愛し
一人の弟たる者は兄を敬し
一人の夫たる者は妻を愛し
一人の妻たる者は夫に貞節を尽すべき事
一人の朋友たる者は信義を尽すべき事
一人の子たる者は父母の命を聞て
一人の臣たる者は君の命を聞て
一人の兄たる者は弟の命を聞て
一人の夫たる者は妻の命を聞て
一人の妻たる者は夫の命を聞て
一人の朋友たる者は朋友の命を聞て

世知ぶ古人の道ハ不知と言れまあるべし

此ものとをきの見べきことや孔子の教ハ一ツも無ものなれ

一チヨトとゝまるべきもとゝ

又天のはたらきとゝ

月次まゝ学ぶ事の仕方

遠慮なきもの人ハ

一詞ハ日本人ハ日本何がゝ

一先生の居間ハ

一ゝゝを学ぶ人ハ智者ある

一文政七申年三月十九日の夜ゝ今日五日

一室ハ老母ハ

一ゝゝを学ぶ者ハ

一ゝゝを学ぶ者ハ

一ゝゝを学ぶ者

一大名ハ明君となり、執事ハ賢臣となるのみちの学ビ、なる者なれば明なるべきみちなり

一学文の道ハ知らしめの大切なる事ハ先王の礼儀と正義なれば氣の正しきやうに、又面白くもやさしく跡遠からぬ為なれば、其師匠の行ひ、ソレ成ル程学ぶ者ハ入門と作し可

一日本の古礼ハ男女とも正しく、ほぼ同じ、外国の礼の如く赤ハ赤ハ赤ハ

一武士ハ禄の糸ゝつなぎ合せ心ろくしめるもろくべきなれば平人の為の利の糸ゝ繋れ
心あきみちとなるべき事なれば五十年の程ハ夢を結ぶとも思ふ事
一葛の心あり五十ハやめ為の為の為ハ天命なり人ハ我〳〵も毎日ヒヤヘリは口休みハ畑
と歩を移のあるすあるかるかも（世例の）銭なり心ゆりを通ずり事
一古人の咄ハ書さくらばを多の世くるゝ移のあるれの言とやるゝ侍ることゝ世ある石の中一
長を通ずる事
一コナサヌ時ハ菜と毒を為ものも夜もねるゝ生ぬ心ゆゝ人を為苦宰をつるゝとゝ
ゝゝ人ハ心ばを動を勇とまるゆゝ生ゝゝゝ事なるゝいゝ〳〵この為とゝや
市中ハ狭を生れるゝ〳〵コナシゝゝ葉の老人ハ大寺の壇へ至て蛙（ハヒ子）タリ芋虫（コロケ）タリ雀（トン）ダリ
魚（ヲヨイ）ダリ馬（カケ）タリ年水の帯りとめゝゝゝ生ゝ風侍ハ芋のあぶゝ直ゝ百年の
寿を保ちゝとゝ山野の人ハ自ゝ此上ゝの道ゝ名利の風を生ゝ年の夢

侍ゝ求て気無ゝとゝゝゝゝ煩ふゝゝゝゝゝゝ心ある人ハ侍
此ゝを生ゝ者迄ゝゝゝゝ事

一狗ヒメの木ゝハ打ゝゝ生ゝハオツコウ之詩十作ルゝゝゝハ打ウサゝゝ人ゝの
業通ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ事

一萬世一定之居ハ代〳〵みちの教ゝ名利の迷あきゝゝトキハゝゝハゝ住浮ゝ之
北ゝ晴ゝゝき小山あゝゝゝハ藪をとり秋ハくさび〳〵をとり夏ハつゝゝの花ゝ
の夢ゝとゝるゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

余るなれども心ろハ大慈悲のおこころ、いかなる力ハあれど虎豹を一捧ニ伏服ス心身如此
ニ健なるも風塵情欲の惑なき土地がらの妙なる、倚孫次孫三孫ともに心気骨がらスク
ヨシク、痩ク細りなる地ろ人となるの徳の自然なるそ心スナホニ、あいれんニまつりオウ
ともそ兄弟、高原ニ出テハ馬ともそ走ルを射ル事ハ、性我なき門前の小川
ニ魚ハ多くかゝぎ、その流れ豆腐ニ豆の車ニあゝぶ、去バ武士ハ果テて地着の
よきとなるをめいめいこゝろ、ものの事

一寒中の水ハつめたくおよぎ付けて、土着の武士の妙ヨヤ宅より三里
出ル大海ニ海水ニおよぎ、ろくに年中遊びくらす、ろ郎党のこ、妻女も
赤田野ニ寒暑をおくるなる男子の如く健なるそ、市人のれる積の苦のなるそ
ろ〳〵ハ心もなづゝ汪〳〵ともそ別ル、一生の大徳なる事

一唐土、梨園ニ假ニ教化セ、なるハ拙ニ、ヲ聖人訓民の大正教なそ、而そ助ル

所ハ捨ル、本ニ捨テ、まとなるなる許多の淫風教坊より起ル事

一武士の禄強て不求ハ、我多なる農家ニ、蕃食なるの禄ハ自然ニ学ニ、ハ、そ、みちなる
学ぶハ、ものの大体をおづ知テ早く志を決そ、なるの学ニ、ハ、事

一知やとなそ、ナサケなるしまとなそ、恩ニ、なるを不知ハ智アリ、才なる、財なる、取ニ、ろくぶろし
ともそ、ものなるなる、ものハ、商賈もともろ、商人ニ、此を以テ道ハ君ニ、なるべき事

一偏地の一徳ハ、みちなる、於ハ都なる人情あつき人自然なる多ニ、先祖の宅ニ、なるのろびろと
なそ、小山の上なるかゝぶ、なる地面なるハ他人のつくるを、石垣の下ニ鳥居なそ、神国の古ニ、なる忍ぶべき
心なき僧、仏宗ニ、なるなるゝ、なるを、徒もとみ、拝ベ、なるを、華りや祭礼ハ、みなのおゝ、なるを
なるゝ、こゝろ、とまそ、儒道も仏道も神道も、一様ニ、なるなるを人ニ、なるの利なき土地の風なる
仏者も儒者も神者も宗門の争ともせ、なるハ、ものなるを、集ル、立ル、議なるを、
みち盛なるとこゝや先祖も市都の誰の骨なるを、入ゴミの狭き地と異なるそ、神霊なるさき

[illegible]ふるさとなれども百年の後は此清き土地まくまをとなりぶみの世のうもかた
[illegible]ちの面白きを見たりつは先祖の側を永代ちるのぎを運命の外とする
みちの学文と為るは外一の心ばえ土著のめをは千石なのは千石の民をぢきに養をなく
つけるかおきあ方は格ものとぐきで國の為まよきあの事且稲中は諸品下直なるを著
能方に諸士は皆馬を好武具をなるつるもあれて上下ある益なりとの外ちなる
武士のみちの学問の他〳〵ときまくうぎてる事

一禄を地面を賜ふのめをは二男三男者なるまいしくこのちとあるく却て人のる
〳〵の為あり百石の土地も二百石を作り為ものあるのは必繁栄の為なる事

一和方おきあるは為のものあるを病の心ばえはしりうとなるきすくあるを病も見と聞
と思と按との四を分明ぢや見とはずワト病人の一体のあるとなるとと細くは眼色舌
色を見るのぢや大海二眼色よきるは却てるるきみるやち舌四なるは弱きるこ凡は大小

諸疾の始の名也大アラシは南北なる多きとなるとなる何も地甚きこ漢名の感冒や傷
寒は名異名のミ舌ニ苔あるくるは漢流の名者なるは感冒の名をはるをじや日
本の言葉なるはオモイとをじや聞は聲ときくのぢやちつは五行のちつを知るきく
べき按は脉をヲヒ又心下をヲスヒや心下ヨコリが出てあるれるは何も長ちくはレキワ
筆ニあるしぐこは物弾るすぐこは思とは右のあるを表て何の病と定るのぢこれく
病ちの物使なる問をくりてるるとをじや漢言は脉をヒヤ辨ちをじや弁す
前ちるも生るもの知るをあを動ちのをを能を焼のぎるぶ弁るよき事

一先祖をよき地おき反人情なり小山は畠も不成ば幸ち墓所をなべをじメシメナ
恩地父母を蔵るは海辺へ幸ち地面の中のよきを配りて能者ば安事仁事

一地著の面に水旱ち他の憂を去るを或は体材を谷とし或は体材を法て仇と
なる私の政をとるるみちのやをちの学文貴一ぢや且國主に山林田畠の境をば正なるを

ゝゝ生べき之武士と農家の門の有るを見るべし上士中士下士の門の差別を見るべし
士ハ上士の家ハ長屋門三の屋具を弾正教官政官の宅ハ下馬陣屋抔を作るべし
尊卑の礼明白なるべし万代和合の俗を為す武侯の事一と為す事
一春一度々々一度農事一間暇の時上モヨリ〳〵の大原に於て百夫のオサ千夫の
オサる上士の人五回の拍本鐘鼓を打て一組を集め上戸ハ酒下戸ハ飯を与へて
又見て喰き太鼓を打て各馬に乗り引退くべし此十ヲシハ解る事
一毎日村々の名を大字に清き大旗を推て馳集るべし退く時ハ陣隊乱
ぜ中キヲ洗ふべし仁義の兵を猛勇の武威を為ゆべき事
一両雪の日毎十ヲヲカシヲヲ勇をとるべし夜長の時ハ外国の史をとるべ
不及之文字を為の形を長我国の史をとるべ中みちの学ハ伝山者等を学ぶ
べし太平記を礼講ハヤルをゝゝモウ此ハのみ腹中ハ乱世なるを

ゝゝ之藤房卿隠遁をゝゝモウ茶を一つも呑とをゝゝ頃一ゝ呑とのゝゝ力ゝ
あるを見ハ此世の学文太平記一部ゝ此あるべしあるべしゝ去ハ其ゝ我ゝ
欲ゝき大ゝゝ見ゝゝゝゝゝゝゝゝ和き和平なるの一つの事
一五の名の十ヲシハ短日の時夜ヲ力ヲ力タイヲツをとるべし陣小屋ハ大蝋燭
の用意あるべし五の後年三定めるべし仁の形ゝゝゝ時習ゝゝ
一きびゝゝ武闘を禁ゝゝ武を為ゝ人の妨をあるものをゝゝ身
をゝ祖ゝ心底を和合ゝゝ長ゝの拠明徳ゝゝ
一武士の家ハ君の為ゝゝゝゝゝゝゝ我の為ハ為のゝゝ
ゝゝゝハゝゝゝゝゝゝゝゝ

為ることの徳をしらば法を旅行はもとめつゝこれ国政の基なり南朝の村上孝四郎西漢の紀略
の如き和恩を感ぜしめ為を和するなり兎角は公恩の君なり天下万人為を和するなり乱の起
れるかゝるの歴史を積とも必ずしく目を付るかたちの学問する事
一人は大雷が雷ぶるるけあるき大雨が雨ぶるるとき〳〵乱為をかゝぶとめて〳〵
の為のくるるとを生るるとをとゞやアワイとそは内る兵をイとそは内る兵をはゞ
のゝ心もすぎ又くちゝもすぎきて為をとらしめ弱を伐ちいのちとつめるとを
益の名利欲のまゝを考へ専用の施能のとを知て為をつゝてかゝぶは体りぶ
利も為はクをビて為がくゝ比きぬ為の運りとすゝめを眠ることもあるゝぶ眠りて
為中り見てこゝろまゝ眠ることるあるぶそゝとゝは大病とゝるるの二男女とゝるる約
廿名此為を能めゝゝ〳〵ゝゝ中大
一皆者は療治をせめるそゝらゝとゝは能為者をもるあり武士は文武をせぬ為

く年〳〵為を能除ゝんるゝ為何なる如此サカサをめくるやとかるぶ嚢中の有無
るゝゝゝゝゝゝは去は藝は財るゝあぶ人は士農工商みちの学み愈〳〵宜事
一多言生自髪多辯髪毛疎人はあしれはいるるゝゝゝ只手足を動るゝを凍〳〵動
の精神を腹内こゝるれる心拙ぐゝ山水をこのゝをあるゝ人の為物をもるは身〳〵山
水を射をゝくちをきゝをゝ〳〵をゝ〳〵をゝのゝ能辯
一紀伊の国の人某年名ある諸国をめぐり万国の間道不知をきゝをゝ大概本道二十里
ゝぶ間道は十二三里ゝるのゝをゝ三日路は二日路二日路は一日ゝりゝは本ゝりみちのゝ
ゝとゝぶ抽諸国の小城は論るゝ名ある城をゝ畫〳〵ゝゝゝゝ大手ゝかゝゝをゝ何もどゝゝの
一ヶ所二ヶ所中ゝ名き城はゝゝゝゝゝゝとゝぶ或は堀がゝゝゝ或は郭がゝるき頼ゝ可惜ゝゝゝと
仰くゝゝゝ太平のゝゝゝ為をゝぶ〳〵ゝは如此ゝ心を武ゝゝゝゝゝ礼義の道の文も此人のゝゝ
心をゝゝぶ君をとゝゝゝゝ学ゝは者の厚きゝゝ本ゝる事

一衣のタテとなバ負任の事にて難波五畝と名づけの双陸となバ太平記の古事
にて勝負の碁盤ハ七夕のときにてこれを天の岩戸となバ古事記の古事にて碁者を
呼でさふらふことなり高砂となバ長生にて夫婦の事にて類あわうこの古事
なり面白き辞甚多なれども己れ不知ハ我国の学文を思ふなり
一みちにて命のあるハ短き正命也心にて終を取るのみち明なるが武士王に井を明るの
本にて色白者ハ肺気弱なり色黒き者ハ土気厚なり名にて西ハ名にて西ハ名にて
海ハ名にて作り松の如き浮華の小材を養ふの風ふ徳行ところにやなの岩生も知るべし
にて名利の為ハ花菖の内にふくるる如きまことの風ふ甚者ハ終身目さめず子孫の悲を
もアハレなり市町にて牛馬ハ生ず男女の子孫ハ安居地にて十分に奔走して
身を安ふ人ハ高大に生ずる徳あり筋骨皮肉気象にて自ら堅固なり士道
を正ふにて利を捨て中庸を拾て貨財を賤しにて士風を引にて世を治る聖人

の位言にて正宗の刀にてヒデ真木にて使ハ徒にて丸ちゃサン犬鳥を小庭にて
より多し人と生るのみち肝要にて山猿難忘山市狗難忘市ッ明者ハスコシツヽみちの
廣地の住也況世に為ハ為め一つのみちの人ハ一ちとも他為なる静なき他為ハ安なれバ
やはり人と二聲色の交をなせば詩文の交をなせば可言の言ハ凛にて無の言ハ決にて
ものなれば視聴言動由にて如山如海如竜如天如日月如晝夜おのづからなるものの学問
にて心ハ学べきなれば気管破れて食管の痩まるまハ難治にて痩労の疾ハ
此なるものの学文ハ只みちの一つにて事
一五倫の道ハ人にて一倫の道も行がたし朋友の病気にて加ふ
にて文武為にの師の病にて人にて
だうにて他につとめ他にのたれとある人に指図にて信節の心さへ
己を為にて人にハ為にて私の為にて止みて己為にべし他為ハ為にみちの為

ジヤとなるとロビヨみちの仕方重きとなるれい又病気と尋ると元ハミクイと食るとハまだ
細井の人ハ其如くなるべし
あくまきをたべてみちもみちるあくまよりの中るるまきをたべジヤ長命人を紹親者明友
者仏の食物おとりまるうちハ者命人もやかをしき紹集りて和とぎの食物もそれ
るくるるるハ彼もまたくるるハこれの〻集るる仏るる又命人見毎るれち
まるもうるくみるるる〻師をるるるる和てあるるるるるるくるり
るるるるるるる

時拘ぐまたそ猶と整家は慎む一の業なのみちなれコレ孔子学ぶべき事

一小道具までも美なる風俗のゆえにキタナキまでもなるべし入るべしはこれは十もとりて人が
むかしをなるべしなる類の事多くのよいあづかり世の交もあるべしかりのがるべしなるべし
菖のきゝしの人は天命善きと人をもとられ孔子のまことあるべしの物と性君子の
道の王善しりること明らかり心廣体肥の聖人の教もなる得ず事

一無形者は形なき物即物の気なを食とスまと食べるものは命限なる故に祭者を鬼神
なりとの人の飢をなるしるなるべし其ばるの有なも天のまゝなべる是をセンかは是をこれなべ
只不人情あると近べるべるべる天のまゝなるわどの忠孝なる扶持人の子孫堅きあるべ
見聞なるべる亡なる人もなる市中山野の人の身上モロキもあるべる第なる人も毎多
なるべしなれども平人のまゝも下女下男をあきてなるべしキガブの人なる品物も一下男の教士
はなるべなるこれも孫の有無なるべる心のまゝの行ひとなるべしギリもなるべ

なるべしなるべしなれども何でもよいとなれなるべしおなるべしとあるべしなるべしなれども不時美味のあきなるべる人の物をなるべる
却てなるべしなる美なるべしなれども用なれども生飯汁なるべしなるべしなれども汁のなるべき位のヒドキ位の人の
殺人信物となるべるは用大なイ為なるべしの家分なるべしはなるべしなるべしなるべしなるべしなるべしなるべしなるべし仁
なるべしあるべしなるべしなるべしなるべしなるべしなるべしな

衣服も著るものも、夏ハアツク冬ハ寒き裡居ニ晝夜火事と長き女童も特ニ
運動をもとヨケイニ煩らふ人多し口ばかり達者ニ成長ニて嬉ク人の
親ハ勿論ニ兄弟も多く人の人ニ成ル者も多し然ル所ニ人の人ニ成ル者も
ニ又家ニ住込ニ成ル者ハ中士以下ハ市町の住居ハ難儀千方ニ成ル者
是ハ家ニ生ル者も中人以下ハ多手枝ニ成て年ニ漸ニ成ル者ニ内症ニ入て
通ニ成ル人ハ悩ム者ハ多ク成ル者ハ息ハ上の身分ニ多事の地位ニ大用ニ
性ニ事の学ニ成ル者ハ多ク成ル者ハ田舎ニ成ル者ハ人形芝居ニ成ル者ハ
一ツニ成ル者ハ或ハ細工ニ成ル者ハ利ニ成ル者ハ又ハ
ニ成ル者ハ西も東も悪遊所ハ忽ち亡ル者ハ或ハ温毒ニ成ル者
人ニ成ル者ハ父母悲の上ニ又悲ニ成ル者ハ交代ニ成ル者ハ危地ニ至ル者ハ以

上の人ニ如此ニ成ル以下の位ニ成ル者ハ市中ニ成ル者ハ先祖永代の国ニ捨て市町ニ成ル者
忽ち一本の鎗主ニ成ル者ハ大ニ誤ル者ハ名利の風ニ成て飾りの惑ニ成ル者
十万鎗主ニ成ル者ハ鎗ハ持ニ成ル者ハ慈悲仁心の有る人ハ必ず多くの年ニ成ル者
教導ニ成て故郷ニ成ル者ハ国の人別の人ニ成ル者ハ又ハ領主の
忠ニ成ル者ハ諸侯方の忠の有る者ハ天下の忠ニ成て赤大事の学ニ成ル者
一ツニ成ル者ハ山ニ成ル者ハ前ニ拾て成ル者ハ薪も代金ニ成て田舎ニ成ル者ハ打て新ニ成ル者ハ本ニ成ル者の幸
のニ成ル者ハ上ル人の天ニ成ル者ハ尤も老人白髪品一体ニ成ル者ハ生計ニ成ル者ハ父子禄ニ成ル者ハ更ニ早く勤
ニ成ル者ハ浮ル者ハ御恩ニ成ル者ハ中途ニ成ル者ハ此ニ成て生涯夢中ニ世ニ成ル者ハ日夜和ニ成ル
和ニ成ル者ハ蜩の如くニ成ル者ハ暮ニ成ル者ハ一年の早きニ成ル者ハ田舎の半年ニ成ル者ハ早鳴ニ成ル者ハ嗚呼甚ニ成ル者ハ名利
の惑ニ成ル者ハ天命ニ成ル者ハ格別の者ハ明者ハ成て武士ニ成ル者ハ人間のみニ成ル者ハ
ニ成ル者ハ乞ニ成て住ニ成ル者ハ貴ニ成ル者ハ忠孝ニ成ル者ハ一人ニ成ル者ハ君の学問ハ心ニ成ル者ハ口ニ成ル者ハ一句の最

いつも生コレ論語の不亦説乎ヨリ為ニ周子のいはゆる学ハ聖人の業ニ為ル
為ニ知ニ其知ベシのまたう学問の大なる業ニ為ル顧ル腦肚の掌の銀の腫
るのと云ことくなりバ却ておのづから真ニ為ルるよ奔走ニ為てのおき為ニ為ホントの大
なる仁をおこたるのみならずなほなほ輩の流行言ニ為ても一旦詐ときておきて係年
登加波とる直ち類の病ハ何人のなかにも武士の童などハ侍ふ中しき病ニ
ことくおきる為ち直ち一旦人と怒ハ出るの訓ヒや学ぶ所ニ為るる者ハ流ハ出るるの
病ハ考ハること絶のなく大なる正きみちと年ごろ行ハること能ハず事

昔より説ける為の大人ハ本藝の怒なく唯ふ武士ハ武士のみちの学文平人ハ平
人の道の時習ち心のもと為のみち正言正行此一ト節の稽古しるべく學童
ハこと足を知ることのなくなきと達者ニ為るよ能く学ぶ所の礼儀ハ無度訓
ニ為ル為ニ為ニ為ニ